# ステークホルダーエンゲージメント

ニチレイグループは、グローバルに展開する事業活動において様々なステークホルダーとのコミニュケーションが重要だと認識しています。ステークホルダーとの様々なコミュニケーション活動や情報開示を通じ当社への理解促進を図っていきます。またステークホルダーから当社への期待やご意見を事業活動へ反映していき、長期的な信頼関係を構築する上で、企業価値の向上を目指します。

| ステークホルダー | 目　的 | 認識している主な課題 | コミニュケーション手段・方法 | 頻　度 |
|---|---|---|---|---|
| **お客様** | 生活者の皆様からいただくご意見やお申し出に対し迅速かつ適切にそして真摯に対応することで、お客様のご満足とコーポレートブランドの向上を目指す | ・商品やサービスについての品質保証<br>・適切な情報提供<br>・食の美味しさや豊かな食シーンの提供 | ・お客様相談センター<br>・お客様満足度（CS）調査<br>・ウェブサイト<br>・ソーシャルメディア | ・日常的<br>・年１回<br>・都度<br>・都度 |
| **株主・投資家** | 適時・適切な企業情報を開示することにより当社への理解促進を図り、企業価値向上につなげる | ・企業価値の維持・向上<br>・適正な利益還元<br>・適時適切な情報開示 | ・株主総会<br>・決算説明会<br>・事業説明会・施設見学会<br>・国内外投資家との個別面談<br>・IRサイト<br>・統合レポート<br>・事業報告書（株主通信） | ・年1回<br>・年4回<br>・年1回<br>・都度<br>・都度<br>・年1回<br>・年2回 |
| **ビジネスパートナー** | サプライチェーンにおけるビジネスパートナーと、強固で有効な関係性を長期的に安定して維持していくことを目指す | ・CSR調達<br>・カスタマーインティマシーによる相互発展 | ・サプライヤーへのCSR調達に関するアンケートの実施<br>・ビジネスパートナーを招待しての会合やセミナーの開催（3事業会社で実施） | ・2018年～調査継続中<br>・年1回 |
| **従業員** | 従業員のモチベーションの向上と活力ある組織風土の醸成を目指すとともに良好で継続的な労使関係を保つ | ・労働安全衛生<br>・働きがいの向上<br>・働き方改革<br>・健康経営 | ・内部通報窓口の設置<br>・EAP心の相談窓口の設置<br>・労使協議会<br>・安全衛生委員会<br>・経営層と社員との座談会<br>・広報誌<br>・イントラネット<br>・社員表彰制度<br>・従業員満足度（ES）調査<br>・従業員ストレスチェック | ・24時間<br>・24時間<br>・年２回<br>・月１回<br>・年１回（全事業所）<br>・年4回<br>・日常的<br>・年1回<br>・年1回<br>・年1回 |
| **地域社会** | 地域社会との良好な関係を築くことで、好感と信頼を寄せられる企業として長期で円滑な事業を営むことを目指す | ・地域社会との共生<br>・地域環境の保全<br>・地域教育活動 | ・社会貢献活動<br>・地域行事への参加<br>・ボランティア活動<br>・食育活動（エシカル消費）<br>・食品工場や物流倉庫の見学会<br>・インターンシップの受け入れ<br>・スポーツイベントの開催 | ・都度<br>・都度<br>・都度<br>・都度<br>・都度<br>・都度<br>・都度 |
| **業界団体・NGO・NPO** | 業界団体の協議会等へ積極的に参加することにより、他社との連携を図る。また、国内外の様々なNGO・NPOとの連携や協働により社会課題の解決を目指す | ・気候変動<br>・フードロス<br>・持続可能な食の調達 | ・TCFDコンソーシアム<br>・（一社）日本冷凍食品協会<br>・（一社）日本冷蔵倉庫協会<br>・（一社）大日本水産会<br>・（認定NPO）セカンドハーベスト・ジャパン（フードロス）<br>・WWF（持続可能な水産物）<br>・RSPO（持続可能なパーム油） | ・都度<br>・都度<br>・都度<br>・都度<br>・月2回<br>・都度<br>・年1回 |

## 食を通じた社会課題への取り組み（セカンドハーベスト・ジャパン）

ニチレイグループでは、2006年から14年間にわたりセカンドハーベスト・ジャパン（認定NPO法人）のフードバンク活動を支援しています。これまで約2万ケース以上の当社冷凍食品を、児童養護・母子支援・障がい者支援等の福祉施設に提供しています。また、商品提供だけではなく冷凍食品の品質管理徹底のため、物流面でのサポートも行っています。

今後も、フードバンク活動の支援を継続し、食を通じた社会課題の解決に向け取り組んでいきます。

### ご提供までの流れ

基本スタンスは「余分なものを押し付けない、本当に必要なものだけを提供」

**ニチレイグループ**
提供可能商品リストを
セカンドハーベスト・ジャパンへ連絡

↓

**セカンドハーベスト・ジャパン**
・各施設へ必要な商品を打診
・各施設からのご要望を取りまとめ
・当社へ連絡

↓

**ニチレイグループ**
ニチレイフーズがご要望の商品を出庫し、ニチレイロジグループが各施設までお届け

### 2020東京10万人プロジェクト※に協賛

2019年度、セカンドハーベスト・ジャパンが取り組んでいる「2020東京10万人プロジェクト活動」に賛同し、100万円を寄付しました。

※2020東京10万人プロジェクト：企業や行政やNPOと協働しながら、2020年の1年間だけで東京都内で10万人、神奈川・埼玉で6万人に対し、「生活を支えるのに十分な食べ物」を渡すことが出来るセーフティーネットを構築しようとするもの
http://2hj.org/100000pj/

## 持続可能な水産物について考えるSDGs授業（伊奈学園中学校）

ニチレイフレッシュは、インドネシアからえびの調達を行っています。2006年より現地のビジネスパートナーであるPT.Mustika Minanusa Aurora（MMA）社と北カリマンタン州タラカン市との協働で、えびの販売収益の一部で養殖池の再整備やマングローブの植樹を行う、自然保護活動「生命（いのち）の森プロジェクト」に取り組んでいます。えびの養殖は環境負荷が高い集約養殖が主流となっていますが、「生命の森プロジェクト」では、配合飼料や電気を使わない粗放養殖という漁法を推進し、地域における持続可能な水産物の養殖に取り組んでいます。

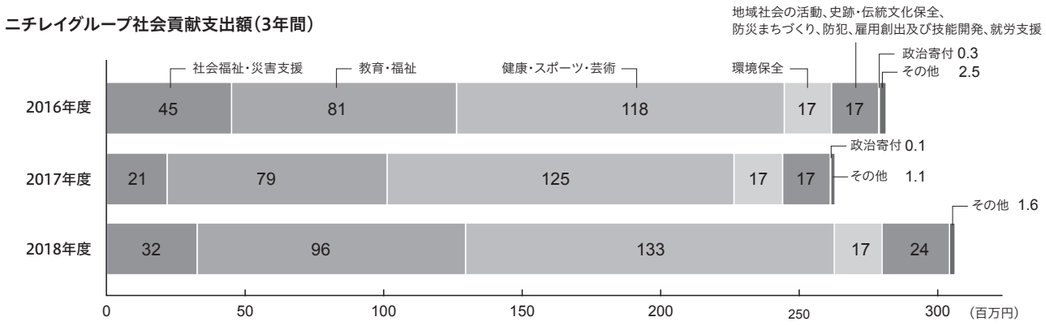
この度、「博報堂SDGsプロジェクトEARTH MALL 未来を変える買い物学校」の下、埼玉県立伊奈学園中学校（https://inagakuen.spec.ed.jp/jhs/）にて持続可能な水産物について考えるSDGs授業を実施しました。身近なえびという水産物のサプライチェーンや地球規模での社会課題などを中心に学ぶとともに、実際にえび養殖をしているインドネシアの生産者の方へのメッセージビデオを作り、それを現地の方が見て中学生とコミュニケーションを図ることで、持続可能な水産物の重要性について学びました。

2019年12月5日
**授業**

2019年12月11日
**えび試食**

2019年12月19日
**ビデオメッセージ製作**

2020年2月28日
**インドネシア**

2020年7月27日
**振り返り授業**

**ニチレイグループ社会貢献支出額（3年間）**